

① 自己評価票

- 自己評価は全部で100項目あります。
- これらの項目は事業所が地域密着型サービスとして目標とされる実践がなされているかを具体的に確認するものです。そして改善に向けた具体的な課題を事業所が見出し、改善への取り組みを行っていくための指針とします。
- 項目一つひとつを職員全員で点検していく過程が重要です。点検は、項目の最初から順番に行く必要はありません。点検しやすい項目（例えば、下記項目のⅡやⅢ等）から始めて下さい。
- 自己評価は、外部評価の資料となります。外部評価が事業所の実践を十分に反映したものになるよう、自己評価は事実に基づいて具体的に記入しましょう。
- **自己評価結果は、外部評価結果とともに公開されます。** 家族や地域の人々に事業所の日頃の実践や改善への取り組みを示し、信頼を高める機会として活かしましょう。

地域密着型サービスの自己評価項目構成

	項目数
I. 理念に基づく運営	22
1. 理念の共有	3
2. 地域との支えあい	3
3. 理念を実践するための制度の理解と活用	5
4. 理念を実践するための体制	7
5. 人材の育成と支援	4
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	10
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応	4
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援	6
III. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	17
1. 一人ひとりの把握	3
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し	3
3. 多機能性を活かした柔軟な支援	1
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働	10
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	38
1. その人らしい暮らしの支援	30
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり	8
V. サービスの成果に関する項目	13
合計	100

○記入方法

[取り組みの事実]

ケアサービスの提供状況や事業所の取り組み状況を具体的かつ客観的に記入します。(実施できているか、実施できていないかに関わらず事実を記入)

[取り組んでいきたい項目]

今後、改善したり、さらに工夫を重ねたいと考えた項目に○をつけます。

[取り組んでいきたい内容]

「取り組んでいきたい項目」で○をつけた項目について、改善目標や取り組み内容を記入します。また、既に改善に取り組んでいる内容・事実があれば、それを含めて記入します。

[特に力を入れている点・アピールしたい点](アウトカム項目の後にある欄です)

日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入します。

○用語の説明

家族等 = 家族、家族に代わる本人をよく知る人、成年後見人などを含みます。

家族 = 家族に限定しています。

運営者 = 事業所の経営・運営の実際の決定権を持つ、管理者より上位の役職者(経営者と同義)を指します。経営者が管理者をかねる場合は、その人を指します。

職員 = 管理者および常勤職員、非常勤職員、パート等事業所で実務につくすべての人を含みます。

チーム = 管理者・職員はもとより、家族等、かかりつけ医、包括支援センターの職員等、事業所以外のメンバーも含めて利用者を支えている関係者を含みます。

○評価シートの説明

評価調査票は、プロセス評価の項目(No.1からNo.87)とサービスの成果(アウトカム)の項目(No.88からNo.100)の2種類のシートに分かれています。記入する際は、2種類とも必ず記入するようご注意ください。

事業所名	やすらぎホーム希望の家
(ユニット名)	
所在地 (県・市町村名)	秋田県山本郡三種町鹿渡字町後256
記入者名 (管理者)	児玉 好子
記入日	平成 21 年 10 月 19 日

自己評価票

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営			
1. 理念と共有			
1	<p>○地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>		事業計画書に理念が掲げられており、職員はその理念を理解して入居者と接している。
2	<p>○理念の共有と日々の取り組み</p> <p>運営者と管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>		理念を職員全員が共有し、さらに全職員で生活する上での目標も立てながら実践に向けて日々取り組んでいる。
3	<p>○家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>		理念については家族会等で説明し、事業の目的や方針は重要事項説明書などで示している。家族や外来者が訪問したときにわかりやすく眼のつく所に掲げている。
2. 地域との支えあい			
4	<p>○隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>		母体施設やデイサービスとの交流や地域の人や入居者の友人が気軽に立ち寄ってくれている。移動売店の人とは馴染みの関係でお茶を一緒に楽しんでいる。小さい子供をを連れた人も訪問してくれ、みんな大喜びしている。
5	<p>○地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>		町内のスーパーへ買い物に出かけたり、町の行事等に参加したりとの関係を深めている。法人の納涼祭や文化祭には地域の方の参加あり一緒に楽しんでいる。

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	○事業所の力を活かした地域貢献 利用者への支援を基盤に、事業所や職員 の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮 らしに役立つことがないか話し合い、取り 組んでいる	中学校の福祉事業の一環として訪問を受け入 れ、入居者と会話したりゲーム等でふれあつ たり、一緒に食事を摂ったりとの交流をして いる。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用				
7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び 外部評価を実施する意義を理解し、評価を 活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価しながら自分たちの実践を認識し、 それを外部から評価していただきながら反省 点を見出し改善に向け取り組んでいる。		
8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの 実際、評価への取り組み状況等について報 告や話し合いを行い、そこでの意見をサー ビス向上に活かしている	利用者、家族、地域住民、包括支援セン ター、GHについて知見を有する人の代表者 で行っている。施設内の視察、施設の現況の 説明を行い、施設に対する意見や感想を述べて もらいサービス向上に活かしている。3カ 月に1回開催している。		
9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議 以外にも行き来する機会をつくり、市町村 とともにサービスの質の向上に取り組んで いる	現況を説明し、不備な点は随時電話し指導を 得ている。		
10	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、地域権利擁護事業や成 年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々 の必要性を関係者と話し合い、必要な人 にはそれらを活用できるよう支援している	適用者はいない。法人での研修で人権擁護委 員からの講義を受けている。		
11	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法 について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や 事業所内で虐待が見過ごされることがない よう注意を払い、防止に努めている	外部研修や法人の苑内研修（三種町包括セン ターより講師頂く）を受け、全職員で希望の 家では虐待がなされていないか検証をする。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 理念を実践するための体制			
12	○契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の契約時には契約書や重要事項説明書等を文章で示し説明している。利用者や家族から疑問点や不安なことがないか確認し納得した説明をしている。	
13	○運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	職員との日常の対話や会話の中で不満や苦情をくみ取り、職員会議やミーティング時に話し合い、入居者の要望に応えるよう支援している。	
14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	健康・生活状態、金銭管理を家族へ毎月文書を送付し報告している。広報等で職員異動の紹介をしている。	
15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会や面会時等で生活状態を報告しながら、何か意見や要望等がないか聞き出している。玄関先に苦情処理コーナーを設けている。	
16	○運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員会議等で職員の意見や提案を聞き入れ行事や日々の支援に反映させている。	
17	○柔軟な対応に向けた勤務調整 利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている	毎月の行事や外出等が事前に計画されている時は職員の出勤数を増やすような勤務体制を組んでいる。必要時には時間外で勤務してもらう。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	職員の異動は法人で決定している。異動があった場合は、全職員で1日も早く馴染みの関係を築けるように努めている。		
5. 人材の育成と支援				
19	○職員を育てる取り組み 運営者は、運営者自身や管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	法人内外の研修、自主研修、認知症介護実践研修を受けさせている。		
20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、運営者自身や管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	秋田県GH協会、能代山本GH協会に入会しており、色々情報を得ている。町内のGHの管理者同士で情報交換している。お互いの行事等には招待するなどの交流をしている。		
21	○職員のストレス軽減に向けた取り組み 運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる	職員間で時々食事会等の親睦をはかっている。法人全職員の歓送迎会、忘年会や研修旅行、リフレッシュ休暇などがある。		
22	○向上心を持って働き続けるための取り組み 運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている	年に1回施設長、管理職との面接がある。自己の目標を立て、その達成度を自己評価し上司から講評・アドバイス頂く。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援			
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応			
23	○初期に築く本人との信頼関係 相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	本人の困っていること、不安なことじっくり聞くように努めている。グループホームでの1日の生活状況等の説明を行う。	
24	○初期に築く家族との信頼関係 相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている	いつでも気軽に相談を受け、家族の困っていること等をじっくり聞いてあげる。電話でも相談を受けている。	
25	○初期対応の見極めと支援 相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	今、どのサービスが必要としているのか見極めながら、サービス事業所の情報を提供している。	
26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう本人又は家族等と相談しながら工夫している	家族と一緒に見学に来てもらい、施設の状況や1日の流れ等を詳しく説明し雰囲気を味わってもらおう。職員や他の入居者との交流も図りながら本人の要望等を聞きだしていく。	
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援			
27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	自分の出来る事（配膳、後片付け、洗濯干し、盛り付け、掃除、野菜の皮むき等）は進んで行ってもらう。畑や花壇の手入れや育て方等を入居者から教えてもらうなどの機会を作っている。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
28	○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている	入居者個々の特性を活かし、その人らしく生活できるように家族との連携を密にしている。家族へ毎月お便りや広報を送付し、生活状況を知らせている。		
29	○本人と家族のよりよい関係に向けた支援 これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している	面会時に近況を報告し居室でゆっくり会話して頂くためにお茶やお菓子等を提供している。行事等には案内を出し、一緒に過ごせる場を設けている。		
30	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないう、支援に努めている	本人が電話や手紙等で近況の報告のやりとりを行っている。本人の希望時は自宅や近隣へ連れて行く等の支援している。行きつけの理・美容院や商店などに出かけている。		
31	○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている	全体で行えるようなレクリエーションやドライブ、お手伝いなどを一緒に行うことを多くし職員が中に入って会話を盛り上げている。入居者同士でお互いに気遣ったり、声を掛け合ったりしている。		入居者同士のトラブルがあっても険悪にならないように職員がフォローするなどの支援を行っている。
32	○関係を断ち切らない取り組み サービス利用（契約）が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないつきあいを大切にしている	長期の入院時は定期的に見舞いに行っている。退去された家族に会った時は現況を聞いたり、問題を抱えていないか聞きだす等の配慮をしている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)		○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント				
1. 一人ひとりの把握				
33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常会話から一人ひとりの気持ちを引き出したり、又1対1でじっくり対応しながら希望や意向の把握に努めている。本人の意向に添った、無理強いのない支援を行っている。		
34	○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、生きがい、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	フェースシートで把握したり、日常会話から導いたり、家族の面会時に話を聞いたりして把握しながら支援に結び付けている。		
35	○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている	一人ひとりの状態に合わせて出来る事・出来ない事の把握に努め、残存機能を生かした張りのある生活ができるよう支援している。一人ひとりの申し送りを確実にしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し				
36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	本人の意向を尊重し、変化のあった時はその都度、意見を出してもらったり話し合ったりして介護計画の作成に努めている。		
37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	定期的（6ヵ月ごと）に見直しを行い、変化のあった時には話し合いをしたり、意向を再度確認したりと、その都度対応し新たな計画を作成している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
38	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の出来事や変化等は日誌や個人記録に記入し共有している。プランについては月に1回モニタリングし職員会議で話し合い、実践や見直しに生かしている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援				
39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	特養・デイサービス・ショートステイ利用者とお互いに行き来し交流できるよう支援して入る。同法人の特養の看護師の助言を頂いたりしている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働				
40	○地域資源との協働 本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関、医療機関等と協力しながら支援している	避難訓練時、消防署から立ち会ってもらい講評を得ている。町や学校の行事・催し物等に参加している。月1回、地域の先生の押し花教室を開催し交流している。個々かかりつけ医が往診してくれている。		
41	○他のサービスの活用支援 本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	同法人特養・デイサービスとの交流での場を設けて支援している。		
42	○地域包括支援センターとの協働 本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	地域包括支援センターの職員が運営推進会議に出席し意見交換をし助言を頂いている。包括センターの職員より虐待・身体拘束についての研修を頂いている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
43	<p>○かかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等の利用支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医、かかりつけ歯科医、かかりつけ薬局等と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している</p>		
44	<p>○認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している</p>		
45	<p>○看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている</p>		
46	<p>○早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している</p>		
47	<p>○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している</p>		
48	<p>○重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取り組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
49	<p>○住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、本人及び家族に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	過去に別の居所に移った人はいない。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援			
1. その人らしい暮らしの支援			
(1)一人ひとりの尊重			
50	<p>○プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	入居者の個々の人格を尊重しながら言葉掛けや対応に努めている。記録等は事務所で保管している。	
51	<p>○利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を「尊厳の保持」に配慮して行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	担当制を設けており希望や要望等は気軽に話せるようにしている。ドライブやレクリエーションの参加は意思確認を行っている。自由に庭へ出たり、畑に行き収穫して来たりしている。	
52	<p>○日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	なるべく一人ひとりのペースに合わせた支援をしている。(縫い物、パズル、散歩等)居室に入っている人には時々見回りしたり、声を掛けたりしている。	
(2)その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援			
53	<p>○身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	季節に合わせた衣類の調整を支援している。理容・美容院は入居する前の行きつけの所に行っている。定期的に理容師のボランティアが来てくれる。	

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事は母体施設より提供あり。盛り付けや配膳、片付け等は入居者と職員が一緒になって行っている。食事形態は個々に応じている。月に2回調理の日を設け、献立・買い物・調理と季節感を考慮しながら入居者主体で行っている。		
55	○本人の嗜好の支援 本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している	おやつは1日2回施設で提供。その他は各自居室で自分のおやつを食べている。飲み物は可能限り各自の好みの物（お茶・コーヒー・ジュース等）を提供。お酒は週1回日曜日と行事、その他随時提供している。		
56	○気持ちよい排泄の支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう「尊厳の保持」に配慮して支援している	オムツ使用者なし。パット使用者1名でトイレに清拭入れと使用済みのオムツを入れるバケツを置いて定期的にだしてもらい職員がその都度確認し処理している。全員の排便のチェックあり。		
57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングや健康状態に合わせて、入浴を楽しめるように支援している	日曜日以外毎日の入浴あり（午後～）。入浴の順番は入居者の意向や希望を取り入れながら行っている。夜間入浴希望者2名あり行っている。		
58	○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している	その日の入居者の状態や希望で居室で過ごしたい人には、居室でゆっくり過ごしてもらいお茶やおやつを居室に運ぶ等の支援を行っている。		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援				
59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	日常生活において出来る事の役割を決めて手伝ってもらっている。職員の申し送り後、職員と入居者が一緒に掃除を行う（出来る人）。自分の得意な裁縫や計算、パズル、塗り絵等を行っている。気晴らしに散歩やドライブ・買い物等に出かけている。		


項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
60	○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	お金の管理できる人には家族からの預かり金より希望額（1万円程度）を手渡している。売店や外出時の買い物等では自分で支払えるよう支援している。		
61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	天気の良い日は中庭や施設の回りは職員の見守る中で自由に散策している。近くの潟や隣接されている特養・デイサービスの方まで散歩したり、時には交流したりしている。町内の店まで散歩してソフトクリーム食べてきたりの支援も行っている。		
62	○普段行けない場所への外出支援 一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している	季節毎のお花見（大潟村、八峰町のラベンダー、水心苑、能代西高のひまわり畑、上小阿仁・五城目の道の駅、ブルーメッセ）等に出かけている。学校や町内の催し物等に参加している。		
63	○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望時は随時、事務室の電話からかけて本人が気の済むようにお話してもらおう。かかって来た時は本人へ取りついでいる。手紙は便箋を買ってきたり、ポストに出すなどの支援を行っている。		
64	○家族や馴染みの人の訪問支援 家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している	本人の希望の場所（居室・ホール）で面会してもらおう。居室での場合は椅子やテーブル等を準備し、お茶やおやつの提供をし、ゆっくり過ごしてもらっている。		
(4)安心と安全を支える支援				
65	○身体拘束をしないケアの実践 運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束なし。虐待・身体拘束委員会を開催し、他の施設のいろいろな事例を挙げながら勉強会を行い、全職員で身体拘束ゼロを徹底している。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに努めている	特に徘徊や無断外出をするような入居者はいないので居室や日中玄関に鍵をかけていない。		
67	○利用者の安全確認 職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している	職員間で声を掛け合い、入居者の所在や様子を把握しながら安全に配慮している。居室に入る時はノックし声を掛けてから入るようにしている。		
68	○注意の必要な物品の保管・管理 注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている	薬剤等は事務室に保管している。危険な洗剤等は手の届かないところに設置している。包丁やハサミなどは職員が見守りながら使用してもらっている。		
69	○事故防止のための取り組み 転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる	入居者の個々の状態を把握しながら職員間で声を掛け合いながら、眼をかけ見守っている。車椅子や歩行器使用者がトイレに入った時などは出やすいように設置するなどの配慮につとめている。		
70	○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の実践訓練を定期的に行っている	緊急時対応マニュアルや消防署からの緊急蘇生法・AEDの使用法などの研修を受けている。		
71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練を年2回行っている。緊急連絡体制網にも地域の消防団が加わっている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
72	○リスク対応に関する家族等との話し合い 一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にしたい対応策を話し合っている	家族の面会時等に個々の生活状況を説明しながら、高齢のためいつ状態変化等がありうる旨を話し、毎日の生活を維持できるよう支援していることを伝え理解してもらっている。		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援				
73	○体調変化の早期発見と対応 一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている	朝・夕個々の状態を申し送っている。体調の悪い人等はチェック・記録しながら情報を共有し対応している。バイタル時や入浴時には体調の変化等がないか配慮している。		
74	○服薬支援 職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解に努めており、医療関係者の活用や服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	医師の指示どおり全職員に申し送りし服薬してもらっている。症状に変化のある時は随時かかりつけ医に状態を報告する。飲み忘れがないように個々の薬を入れるケースを作ったり等の配慮をしている。		
75	○便秘の予防と対応 職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる	なるべく体を動かし、水分を多く摂り、時にはお腹をマッサージするように声掛けをしている。ラジオ体操や筋トレを1日2回継続している。		
76	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている	食後の歯磨き、夜間入れ歯をポリデントに浸けている。常に痰が絡み、嚥下困難な入居者が一人いるため入れ歯を外し、痰を出せるよううがいをしたり、歯ブラシで痰を取り除いたりと随時、口腔清潔の援助に努めている。		
77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう状況を把握し、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	母体施設の栄養士がカロリー計算をし食事を提供している。飲み込みの悪い人や脱水症状を起しやすい人は1日の食事量や水分量を記録している。個々に合わせた食事形態を取っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
78	○感染症予防 感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症予防対策マニュアルがある。その都度感染予防対策委員会を開催し、手洗い・うがい・換気等の徹底を図っている。食事前や外出後等は必ずうがい・手洗いをしている。インフルエンザワクチンは全員受けている。		
79	○食材の管理 食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	プレバント水（食器用消毒液）を使い、食事前のテーブル・お膳等を拭いている。台所備品等はハイターで消毒している。オシボリ等はプレバント水に浸し、洗い、乾燥させて使用している。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1)居心地のよい環境づくり				
80	○安心して出入りできる玄関まわりの工夫 利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関前にはプランターを置いたり、玄関に入れば入居者と職員が作った作品を置いたり季節の花や木の実などを持ち寄り飾っている。中庭には花壇があったり、ベンチを設置し近隣の人でも立ち寄れる環境づくりになっている。玄関先にはスロープも設置		
81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や臭いや光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	建物は木のぬくもりがあり、台所は対面式になっている。常に季節を感じることができるように季節に合った壁面作りに力を入れている。掃除は毎朝入居者と共に行っている。トイレの汚れの点検は随時行っている。		
82	○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホールにソファを置いて、気の合った入居者同士で新聞を読んだり一緒にパズルを行ったりしている。廊下には南ベンチが設置され外の景色を眺めながら入居者同士で語り合っている。		

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好み のものを活かして、本人が居心地よく過 ごせるような工夫をしている	入居時には本人が使い慣れた物や気に入っ ている物を持って来て頂いている。本人の要望 を聞き入れ、家族の写真や自分で作った作品 など好みの物を飾っている。		
84	○換気・空調の配慮 気になるにおいや空気のだよみがないよ う換気に努め、温度調節は、外気温と大き な差がないよう配慮し、利用者の状況に応 じてこまめに行っている	朝の掃除時は一斉に全室の窓を開け換気に努 めている。食後入居者が居室に戻る前に居室 を訪れ居室の確認し、それに応じてこまめに 換気や温度調整を行っている。		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり				
85	○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの身体機能を活か して、安全かつできるだけ自立した生活が 送れるように工夫している	玄関・廊下・トイレ・浴室には手すりが付い ている。フローアはバリアフリーとなってい る。		
86	○わかる力を活かした環境づくり 一人ひとりのわかる力を活かして、混乱 や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工 夫している	各居室には表札が掲げられている。トイレ、 ゴミ箱、カレンダーなど大きな文字や絵でわ かりやすく表示している。ほうき、ちりとり も見える所に設置し、汚れに気付いた時は随 時掃除できるようにしている。		
87	○建物の外周りや空間の活用 建物の外周りやベランダを利用者が楽し んだり、活動できるように活かしている	ベランダには物干しがあり、ベランダから見 える中庭に花壇を作りベンチを設置、庭に 出て茶話会やグランドゴルフを行っている。 裏には畑があり入居者と種まきや収穫を楽し んでいる。		

( 部分は外部評価との共通評価項目です)

V. サービスの成果に関する項目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
項 目		
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	○ ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の2/3くらいの ③利用者の1/3くらいの ④ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	○ ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	○ ①ほぼ全ての家族と ②家族の2/3くらいと ③家族の1/3くらいと ④ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	○ ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 (該当する箇所を○印で囲むこと)
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	○ ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	○ ①ほぼ全ての職員が ②職員の2/3くらいが ③職員の1/3くらいが ④ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の2/3くらいが ③利用者の1/3くらいが ④ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の2/3くらいが ③家族等の1/3くらいが ④ほとんどできていない

【特に力を入れている点・アピールしたい点】

(この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)

入居者の要望に応じて、天気の良い日は外出支援（ドライブ、散歩、日光浴等）に力を入れている。毎日1日2回のラジオ体操・筋トレ等を行い体力維持に努めている。家庭的の中で入居者が自分の役割をしっかりと行い、生き活きと生活している。職員は入居者の笑顔や笑い声を引き出すためいろいろ計画し実行している。